

まちづくり交付金 事後評価シート
糸魚川駅北地区

平成21年12月

新潟県糸魚川市

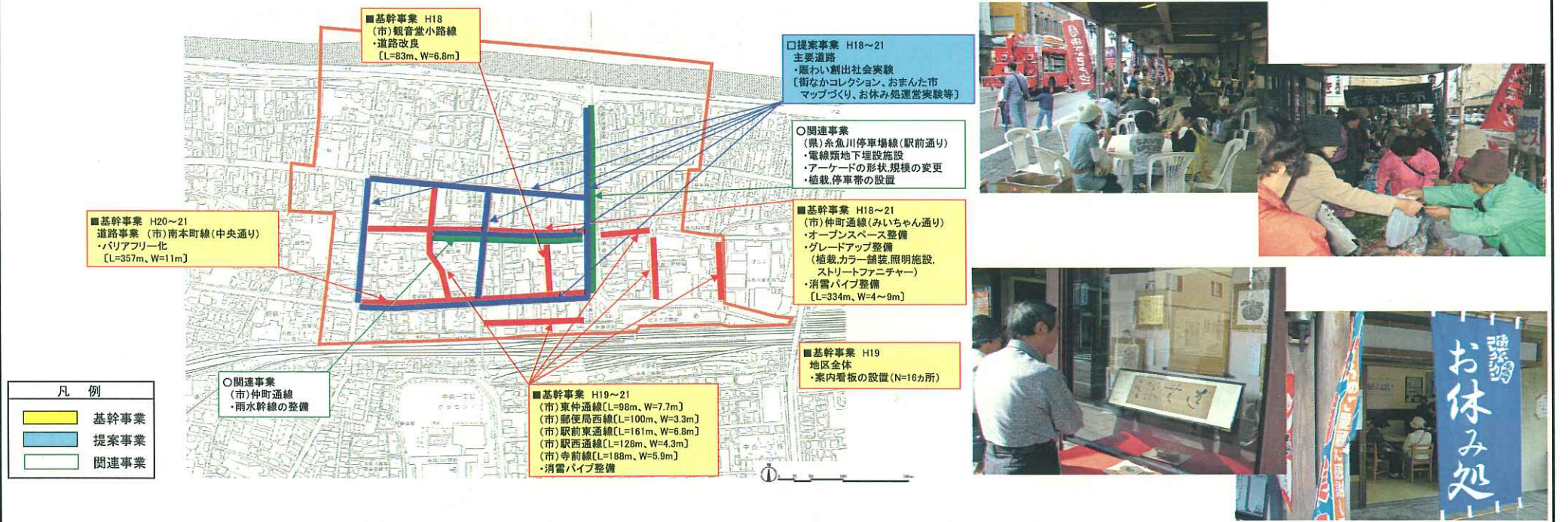
様式2-1 評価結果のまとめ

| 都道府県名 | 新潟県 | | 市町村名 | 糸魚川市 | | 地区名 | 糸魚川駅北地区 | | | 面積 | 25ha | | | |
|---------------------------------------|--|-----------------|---|---|------|---------|-------------------------------------|-----------------|--------|----------|--|--|-------------|--|
| 交付期間 | 平成18年度～21年度 | | 事後評価実施時期 | 平成21年度 | | 交付対象事業費 | 248.5百万円 | 国費率 | 0.4 | | | | | |
| 1) 事業の実施状況 | 当初計画に位置づけ、実施した事業 | 基幹事業 | 道路(市道仲町通線・市道南本町線)、地域生活基盤施設(案内看板設置) | | | | | | | | | | | |
| | | 提案事業 | まちづくり活動推進事業(賑わい創出社会実験) | | | | | | | | | | | |
| | 当初計画から削除した事業 | 基幹事業 | 道路(県道西中糸魚川線・市道上刈白馬通線) | | | | 再検討し地元の意向により取り止めた。 | | | | 影響あるが、軽微である。 | | | |
| | | 提案事業 | まちづくり活動推進事業(交通社会実験) | | | | 再検討し地元の意向により取り止めた。 | | | | 影響あるが、軽微である。 | | | |
| | 新たに追加した事業 | 基幹事業 | 道路(市道東仲通線・市道郵便局西線・市道駅前東通線・市道駅西通線・市道寺前線・市道観音堂小路線) | | | | 安心して歩けるまちなかづくりの一環で、融雪施設整備など新たに追加した。 | | | | 影響あるが、軽微である。 | | | |
| | | 提案事業 | なし | | | | | | | | | | | |
| 交付期間の変更 | 当初 | 平成18年度～21年度 | | 交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響 | | | | | | | | | | |
| 変更 | なし | | | | | | | | | | | | | |
| 2) 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況 | 指標 | | 単位 | 従前値 | | 目標値 | | 数値 | | 目標達成度 | 1年以内の達成見込み | 効果発現要因(総合所見) | フォローアップ予定時期 | |
| | | | | 基準年度 | 目標年度 | モニタリング | 評価値 | | | | | | | |
| | 指標1 | 中心商店街の歩行者減少率 | % | -4.9 | H17 | -2.6 | H21 | | 0.2 | ○ | あり なし | 道路のグレードアップ、バリアフリー化などにより、歩きやすい通りに整備され、駅北まちづくり実行委員会の賑わい創出活動により、来街意欲が高まり、歩行者減少率の抑制につながった。 | | |
| | 指標2 | 催し物の入込客数(民間主体) | 人/年 | 22,500 | H17 | 25,000 | H21 | | 49,000 | ○ | あり なし | 駅北まちづくり実行委員会の取組みにより、地域の宝、資源、特産を活用した催し物を実施し、多くの人々がまちなかを訪れた。 | | |
| | 指標3 | 民間まちづくり活動の参加人数 | 人/年 | 37 | H17 | 50 | H21 | | 63 | ○ | あり なし | 駅北まちづくり実行委員会の賑わい創出活動の輪が広がり、まちづくりを担う人材の発掘、育成につながった。 | | |
| 指標4 | 「お休み処」の利用者数 | 人/日 | 20 | H17 | 40 | H21 | | 65 | ○ | あり なし | 駅北まちづくり実行委員会の取組みにより、空き店舗を活用した「お休み処」を開設し、来街者や住民の交流憩いの場となった。 | | | |
| 3) その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況 | 指標 | | 単位 | 従前値 | | 目標値 | | 数値 | | 目標達成度※1 | 1年以内の達成見込み | 効果発現要因(総合所見) | フォローアップ予定時期 | |
| | | | | 基準年度 | 目標年度 | モニタリング | 評価値 | | | | | | | |
| | その他の数値指標1 | | | | | | | | | | | | | |
| | その他の数値指標2 | | | | | | | | | | | | | |
| その他の数値指標3 | | | | | | | | | | | | | | |
| 4) 定性的な効果発現状況 | <ul style="list-style-type: none"> 人がでかけることによって、商店街の意識が芽ばえてきた。 地域住民と商店街の連携が強化された。 これからのまちづくりの中核となるリーダーが育ってきた。 相馬御風やヒスイなど眠っていた地域の宝を再発見し、その重要性を再確認できた。 雁木などの既存のストックの活用や関連事業の雨水幹線整備との連携により、今回のソフトとハードの一体的な事業を成し得た。 | | | | | | | | | | | | | |
| 5) 実施過程の評価 | 実施内容 | | | 実施状況 | | | | 今後の対応方針等 | | | | | | |
| | モニタリング | なし | | 都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった | | | | | | | | | | |
| | 住民参加プロセス | 賑わい創出社会実験(提案事業) | | 都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった | | | | ● まちづくり活動の継続 | | | | | | |
| 持続的なまちづくり体制の構築 | 駅北まちづくり実行委員会 | | 都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった | | | | ● 継続する組織の検討 | | | | | | | |

様式2-2 地区の概要

糸魚川駅北地区(新潟県糸魚川市) まちづくり交付金の成果概要

| まちづくりの目標 | 目標を定量化する指標 | | 従前値 | | 目標値 | | 評価値 | |
|--|----------------|---------|--------|-----|--------|-----|--------|-----|
| 交流と発見のある、安心して歩けるまちなかづくり ・「塩の道・加賀街道」人と文化の交差点、歩けば出会いと発見のある「おもしろい(面白い、楽しい)まち」 ・これからは、みんなが安心して歩ける“快道”づくり | 中心商店街の歩行者減少率 | 単位: % | -4.9 | H17 | -2.6 | H21 | 0.2 | H20 |
| | 催し物の入込客数(民間主体) | 単位: 人/年 | 22,500 | H17 | 25,000 | H21 | 49,000 | H20 |
| | 民間まちづくり活動の参加人数 | 単位: 人/年 | 37 | H17 | 50 | H21 | 63 | H21 |



まちの課題の変化

来街意欲を向上させるための仕掛け不足を改善
 ・夏祭りの時期には多数の来街者があるものの、その他の時期については来街者は少ないため、来街意欲を向上・維持させるような催し物の実施、地域資源の活用及び交流拠点の整備が市民まちづくり懇談会の議論の中で求められており、さらにそれらの活動に携わる人材の育成が必要となっていたが、催し物の実施、地域資源の活用、交流拠点「お休み処」の開設など駅北まちづくり実行委員会の活動により、来街意欲を向上させ、まちなかの賑わい創出につながった。
 ・平成26年度に予定されている北陸新幹線開業を見据えた、糸魚川駅北と駅南の連携が残された課題である。

歩きにくいまちなかの道路を改善
 ・本地区は歩道の横断勾配が急な区間及び歩車分離が図れていない道路の存在、まちなかの案内板の不備により、安全かつ安心して歩ける環境ではないため、市民まちづくり懇談会での議論の中でも改善が求められていたが、通りのグレードアップやバリアフリー化、わかりやすいまちなか案内看板の整備などにより、お年寄りや体の不自由な人でも安全かつ安心してまち歩きができる環境になった。
 ・グレードアップされた通りの活用方法の具体化と行政のかかわり方が新たな課題である。

今後のまちづくりの方策(改善策を含む)

民間まちづくり活動継続へのバックアップ
 ・活動資金の確保
 ・事務局がしっかりしたまちづくり団体へ移行
 ・自力で運営していくための商店街の意識改革

駅北と駅南の連携
 ・駅北は商業地域、駅南は住居地域に位置づけているため、南から北へ買物などに出かけやすい環境を整備する。
 ・歩いて楽しいまちづくりをさらに推進
 ・駅北の古い街道(塩の道、加賀街道)沿いに残っているものを、もっと物語にするなど、街を“歩いて”楽しめたり、学べたりできるようなまちづくりを進める。